



ITU-R SG7関係会合の結果について



総務省 総合通信基盤局 電波部 基幹・衛星移動通信課 衛星推進係

あんど まりあ
安藤 麻里愛

1. はじめに

2020年4月20日(月)~4月24日(金)の5日間にわたり、科学業務に関する審議を所掌とするITU-R(無線通信部門)SG7(Study Group 7:第7研究委員会)及びSG7下のWP(Working Party)であるWP7B及びWP7Cが開催されたので、その概要を報告する。なお、今回のWP7B及びWP7CにおいてはWorking Groupは開催されず、作業部会の本会議のみが開催された。

今回合会は、リモートで会議が行われ、23か国・12の機関から延べ394名(SG7:106名、WP7B:145名、WP7C:143名)が出席した。日本からは、総務省、(国研)宇宙航空研究開発機構、宇宙技術開発(株)、(株)NTTデータ経営研究所から計9名が参加した。

2. SG7会合

SG7会合は、WP7AやWP7B、WP7C、WP7Dから上程された勧告案や報告案、研究課題案の最終審議を行う場である。今回合会はWRC-23に向けた最初の会合であり、John ZUZEK氏(米国)が議長を務めている。今回合会にて、各作業部会の議長が以下のとおり任命された。

WP7A議長: Ronald L. BEARD氏(米国)

WP7B議長: Catherine SHAM氏(米国)

WP7C議長: Markus DREIS氏(EUMETSAT)

WP7D議長: Anastasios TZIOUMIS氏(オーストラリア)

また、7件の入力文書について審議され、出力文書は作成されなかった。

3. WP7B会合

WP7Bは、宇宙研究、宇宙運用、気象衛星等の宇宙無線アプリケーションに関する事項を扱っている。今回合会では26件の入力文書について審議が行われ、新勧告案(DNR)1件、他WP等への連絡文書4件を含む、10件の出力文書が作成された。

3.1 WRC-23議題1.4関連

WRC-23議題1.4は、2.7GHz以下のIMT特定された周波数帯におけるIMT基地局としての高高度プラットフォームス

テーション(HIBS)利用について検討する議題である。

本議題の責任グループであるWP5DからWP7Bに対し、技術特性や運用上の特性といった保護基準に関する情報提供を要請する連絡文書が入力されていたが、2020年6月に開催される次回WP5D会合までに関連情報を提供することは難しいことから、WP5Dが定めた期限までに詳細な情報を提供することを通知する連絡文書を送付することにとどめた。

3.2 WRC-23議題1.13関連

WRC-23議題1.13は、14.8-15.35GHz帯に二次分配されている宇宙探査業務の一次分配への格上げについて検討する議題で、責任グループはWP7Bである。

今回合会では、米国から、本周波数帯の宇宙研究業務システムの特性情報をまとめるITU-R新勧告草案SA.[15GHz SRS CHARACTERISTICS]及び本周波数帯における宇宙研究業務と同周波数帯域内及び隣接周波数帯域にて運用している他業務のシステムとの共用及び両立性の研究を報告するITU-R新勧告草案SA.[15GHZ SRS SHARING]に向けた作業文書案が提案された。

米国は今後行われる議論のための初稿として議長報告に本作業文書を添付するように提案したが、イランは、一部の国において本周波数帯が特定の業務の用途に利用されている点等が指摘され、作業文書案を議長報告に添付することに反対した。

議長からは、本会合はリモート会議で制限のある中で実施しており、詳細な議論はしない方針であることから、両文書に「本文書は議論又は同意されておらず、今後検討していくこと」及び「今後の会合においてWRCへの根拠資料として用意するITU-R文書について議論する必要があること」を注記した上で議長報告に添付することが提案され、合意された。

併せて、今後のWP7Bでの研究のために必要となる当該周波数帯及び隣接帯域にて運用するシステムの技術情報及び運用情報の提供並びに電波伝搬モデルについての指導を、関係する作業部会(WP3M、WP5A、WP5B、WP5C、WP7C及びWP7D)に要請する連絡文書案が作成され、



各作業部会へ送付することが合意された。

4. WP7C会合

WP7Cは、リモートセンシングに関する事項を扱っている。今回合合では29件の入力文書について審議が行われ、関連WPへの連絡文書10件を含む、12件の出力文書が作成された。

4.1 能動センサ及び宇宙天気

・WRC-23議題1.12関連

WRC-23議題1.12は、45MHz帯衛星搭載レーダーサウンダーのための地球探査衛星業務（能動）への新規二次分配のための検討を行う議題であり、WP7Cが責任グループである。

フランスより、本議題に関する技術的助言を求める3件の連絡文書の起草が提案された。本合合では、これら連絡文書を統合することの是非について議論されたが、一度統合すると再び観点ごとに分解整理することが難しくなる旨イランが懸念を示し、現状維持となった。

議論の結果、他合合（WP5A、WP5C、WP6A）への連絡文書案が作成され、事務局にて送付先WPと調整し、コンタクトポイントを設定することとなった。

・その他の地球探査衛星業務について

2022年に打ち上げ予定である、ESAとJAXAが共同で開発している衛星EarthCAREに搭載される雲プロファイリングレーダが、電波天文業務のシステムに影響を及ぼす懸念があるため、運用を保護するために、EarthCAREの設計及び運用について調整の必要があることがIUCAFから寄与文書にて、指摘された。

ESAとJAXAは、電波天文関係者と連絡を取り合っており、今後は電波天文システムへの影響を最小限にするための調整を行うとの見解を示し、その旨、議長報告に記録され、2020年の秋に開催される宇宙周波数調整会合（SFCG）にて取り扱うこととなった。

4.2 受動センサ

・WRC-23議題1.14について

WRC-23議題1.14は、現代のリモートセンシング観測の要求にのっとった231.5–252GHz帯における地球探査衛星

業務（受動）に係る既存分配の見直しと新規分配について検討する議題であり、WP7Cが責任グループである。

米国から次回のWP7C会合で議論できるよう、WP4A、4C、5A、5B、5Cへの連絡文書案が入力された。今回合合では、本連絡文書案を議長報告に添付し、次回合合で審議されることとなった。

- ・1400–1427MHz帯におけるテレビ受信機の中間周波数回路から漏えいする電波による地球探査衛星（受動）業務への周波数干渉について

WP1Aからの連絡文書に関し、ESAが返答連絡文書案を起草していることが本合合にて報告（具体的な寄与文書による入力はない）された。

その後、ESAは会合で「返答連絡文書案」及び「ITU-R SG1新研究課題案」を示し、審議がなされた。我が国からは、テレビ受信機の中間周波数の電波漏えいについては、ITU-Rよりも国際無線障害特別委員会（CISPR）で検討することが適切であること等を主張し、議論の結果、議長報告に記録されることとなった。

イランからは、本件は十分議論されていないことから情報提供扱いにすべきであり、次回合合で審議すべきと主張、米国も次回合合で審議すべきと要請した。SG7議長からも、新研究課題の提案は本来、入力された寄与文書に基づき議論されるべきと、プロセス上の不備が指摘され、次回合合で改めて寄与文書を入力するよう求めた。

議論の結果、「返答連絡文書案」及び「ITU-R SG1新研究課題案」は、議長報告に添付され、次回合合で改めて審議されることとなった。

5. おわりに

今SG7関連会合は、コロナの影響によって例外的にリモート会議としての実施となり、期間も短かったため、いくつかの議論が先延ばしとなった。次回合合では、今回開催されなかったWP7AとWP7Dも開催される予定であり、我が国としては引き続き状況を注視していく必要がある。

次回合合は、WP7A、7B、7C及び7Dは2020年9月14日（月）から10月2日（金）の15日間にわたり、リモート会議で開催される予定である。最後になったが、今回合合において多大な尽力をいただいた日本代表団全員にこの場を借りて深く御礼申し上げます。